



Be Creative



出会い、つながり、ひろがる学び



3 年生 GFSⅢカンボジア実践のまとめよりー

今年度から 2 年間、パナソニック教育財団の特別研究の指定校として、3 年生、2 年生の総合進学コースの生徒たちが取り組んでいるカンボジアにおける教育支援の活動。今月の校長室だよりは、その 3 年生の生徒の学びに注目をしました。

彼らの学びが大きく動き出したのは、夏の World Youth Meeting (WYM)。これまでオンラインでしかお話をしたことのなかったカンボジアの小学校のお二人の先生、Chork 先生、Chanseyha 先生が来日。夏の京都旅行に出かけ、交流を深めるとともに、WYM ではカンボジア

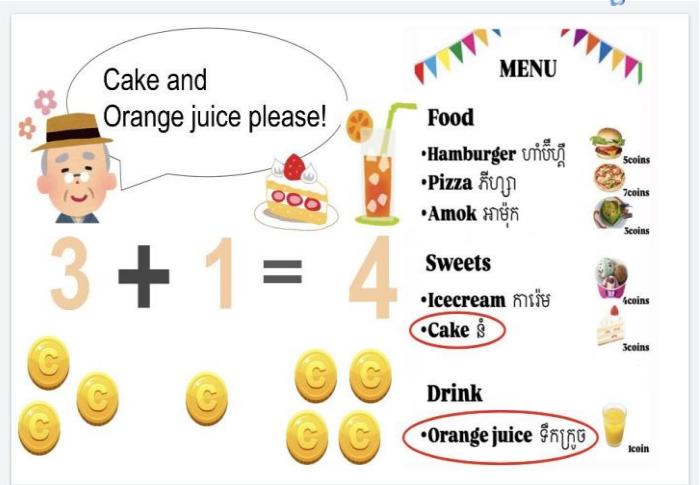
の小学生に足し算や引き算をどう教えるのか、カンボジアの二人の先生とともに講座を担当しました。この講座は参加者から大好評を得ます。この先生方との出会いとつながりが彼らを大きく育てました。

積極的に外に出ていく取り組みもしました。夏の WYM の取り組みをポスター発表するため、名古屋オアシス 21 で開催されたワールドコラボフェスティバルに参加。

偶然通りかかった方にも楽しん



でもらうためにスタンプラリーを実施するとともに、これまで行ってきたカンボジア現地との活動を皆さんに知ってもらうために、積極的にコミュニケーションを取りましたと彼らは言います。





カンボジアの小学生に向けて教材も作りました。「買い物ゲーム」を行いながら、算数の勉強をする教材です。まずは自己紹介から。「Hello! We are sushi girls」日本と言えば「Sushi」自分たちを身近に感じてもらうための工夫もしました。教材のスライドは、小学生の興味を引くこと、きれいに楽しく、そして何より「教材として正しく」をモットーに作成をしました。

12月5日に実施された明治大学の岸磨貴子先生及びPanasonic教育財団の皆さんをお迎えしての教育実践報告では、高校3年生の5人の生徒(森下さくらさん・中西璃音さん・釜崎あいりさん・榎原寧々さん・澤田暁さん)が代表して、これまでの学習のまとめを発表しました。その発表では、生徒たちは「自分たちがなぜ、この活動を続けているのか、この活動を通して何を学んだのか、そのことを一言で表すことにより、自分たちの成果をふり返りました。彼らが選んだ言葉は「理解・伝える・知る・広める・学ぶ」でした。それぞれの言葉に込められた思いを、生徒自身の表現で皆さんにお伝えします。

理解 私はカンボジアの先生方と国際交流を行い、自分の中で大きな変化がありました。それはWYMでの活動でカンボジアの文化やクメール語を学び、他言語や異文化に興味・関心を持つようになったことです。お互いを理解するためには異文化に触れ、他言語を学ぶことが大切だと学びました。

伝える カンボジアのことについて、今度は私が他の人に対してどのようなことを学んだのか、そしてどのようなことをすることが必要なのかということについて伝えることが大切だと思います。まずは自分がカンボジアの現地そのものやカンボジアの小学生のことについて深く学びながら、その学びで気づいたことを、よりたくさんの人々に伝えていくために活動していきます。

知る 興味があることに対して実際に行動を起こして、外国の方やその国について知りたいと思っています。カンボジアのことを何も知らなかったのですが、関わっていくうちに、もっと人や国について知りたいと思うようになり、知識を深めていきたいと思っています。相手の力になれることがとても嬉しいとの活動を通して思いました。より役に立つことが出来たらいいなと思います。

広める 私自身、今回の活動をするまでカンボジアについて知ることはありませんでした。最初の印象と、実際に知って学んで得た印象では感じ方がとても違うことがわかりました。間違った印象が多くの方に根づいたままでは、今後の変化が間違った方向へ向いていくと思います。そのようなことがないためにも、正しい知識を学び、周りへと広めることが大切であると考えました。

学ぶ 今回の活動を通してカンボジアの教育がどのくらいのレベルにあるかを知ることができました。少しでも教育の質を上げるために、現地でもすぐ活用できる電子機器を使い、高校生ならではの教材を作りました。また、教材作りをしていく中でカンボジアの現地の子どもたちや先生と共に、フィードバックの機会やリモートを活用しながらコミュニケーションを取り、学び合うことができました。

学びはこの後もう少し続きます。皆さんの学びが更に広がっていくことを期待します。そして、そのバトンをぜひ後輩につないでください。現在、高校2年生の諸君もGFSⅡの授業の中で、カンボジアとの実践交流を深めています。2年生の諸君は筆算による足し算をカンボジアの小学生に教える教材の作成を行い、現地からのフィードバックをもとに改良する取り組みを進めています。



2年生沖縄修学旅行終る

5年ぶりとなる沖縄修学旅行が復活し、民泊も含めた取り組みが、つい先日、終了しました。私にとっても久々の沖縄の旅でした。この旅で強く心に残ったのは、やはり人との出会いでした。私は2年D組の生徒の皆さんと行動を共にする時間が長かったので、その体験を通してお話をします。



【出会いその1】バスガイド・前里さん。



平和学習からこの修学旅行はスタートしたのですが、沖縄戦の歴史、戦争中の住民の皆さん方が歩んだ道のりなどをわかりやすく高校生に語ってくださいました。D組は2日目にも嘉数高台に出向き、普天間基地の見学をしたのですが、前里さんはまさにこの地域で幼いころから育った人でした。ご自身の体験も踏まえてお話をしてください、生徒たちの学びも深まりました。

【出会いその2】ひめゆり祈念資料館語り部・仲田さん。語り部の仲田さんは若い女性でした。修学旅行に行く度に、「君たちが戦争体験者の話を実際に聞く最後の世代」ということを生徒の皆さんに言い続けてきましたが、5年ぶりの沖縄においては、語り部のバトンタッチが実際に行われていました。ひめゆり部隊の体験者・宮良るりさんのお話は映像で聞き、若い語り部の方がそれを補足し、わかりやすく高校生に伝えてくださったことは大変ありがとうございました。その後、資料館を見学する生徒たちの真剣なまなざしが印象に残っています。若い人たちが先人の思いを引き継ぎ、また次の世代へと伝えていくことの大切さを実感しました。

【出会いその3】糸数ガマのガイド・新城さん。残念ながら私は今回、諸般の事情によりガマの見学がかなわず、入口で向井先生・高橋先生、生徒たちを見送ることになります。予想した以上に長い時間をガマの見学に要したように感じました。少し歩いたところにガマの出口があつたので、そこで待つことにしました。生徒たちが無言で出てくる様子が伺えました。重い空気を感じました。しっかりとガイドさんの話や思いを受け止めたのでしょうか。向井先生が「あのガイドさんで本当によかった。」と言われたことが印象に残っています。この先おそらく、生徒の皆さんガマに入ることはないと思うと、その1回の体験がよきものであったことを本当にうれしく思いました。



【出会いその4】本部町の民家のみなさん。久しぶりの民泊ゆえ、私たち教員も少し緊張。どうぞ、良き人たちでありますように、そんな思いが胸に湧いてきました。しかしながら、心配は無用。生徒たちは沖縄の皆さんのお懐に飛び込んでいきました。翌日の離村式は笑顔と涙に溢れる会となりました。「先生、いい子たちですね。楽しかったですよ。」「礼儀正しく、私たちの話によく耳を傾けてくれました。」民家の皆さんのお言葉です。私たちではやってやることできないことを民家さんにはやっていただきました。心よりお礼申し上げます。

【出会いその5】自分の役目を果たした2年生の生徒たち。

普段は廊下ですれ違うくらいで、生徒と接点のほとんどない私にとって、生徒たちと過ごす4日間は本当に楽しいものでした。特に、生徒会執行部、学年議長団、学級議長団、平和学習委員の諸君は大奮闘でしたね。病人、けが人なく、4日間を過ごすことができました。「楽しかった」だけで終わらすことなく、自分自身がどこで努力し、何を学び、心がどのように動いたのかをぜひ記録に残してください。先生方もご指導ありがとうございました。



首里城復興募金贈呈式にて